

中央大学法科大学院（大学院法務研究科）
2022年度入学者選抜 法学未修者コース 小論文筆答試験 出題趣旨

極めてまれな想定外の事態が起こることを「黒い白鳥（ブラック・スワン）」と呼ぶそうである。リスクとして算定できない不確実性について論じられた書籍の序文を読んでもらい、理解力と、説明する力と、発想力を示してもらった。

問1は、文章を読んで、直接には書いていないことについて、合理的に推測し、説明する能力を示してもらうものである。

社会を大きく変えるほど大きな影響がある重大なことなのに、「いないフリ」をするのは、なぜだろうか？単に「みんな頭が悪いから」だったら簡単であるが、そうではない。もし本当に予測できるなら、それを想定して行動するのが合理的であるが、それができないからだ。白と黒以外の白鳥は何種類想定できるだろうか？白鳥以外の動物についても同様に想定するとどうなるか？その他にも森羅万象について無限の想定が可能で、それらが複雑に絡まり合って連動し思わぬ事態を招く。それぞれが実際に発生する可能性は、ゼロではないにしても、個別に見ればほとんどゼロであるものがほとんどだ。つまり、「考えるだけ無駄」なものがほとんどだから、社会学者でさえそうになってしまう、ということである。

問2は、「黒い白鳥（ブラック・スワン）」の定義をし、その条件を明示して、対象に対し当てはめて確認する能力を示してもらうものである。

問題文に、①普通は起こらないこと、②とても大きな衝撃があること、③（事前ではなく）事後には予測が可能であること、という3条件が示されているので、これを明示して用いることが必要である。(1)も(2)も、①～③の条件を、面倒がらずに、いちいち確認する必要がある。

そして、(2)では、条件に合致する類似例を、これまでの知識や経験の中から引き出して示し確認していただくことで、豊かな知識と経験をバックボーンとして有している人物であることを確かめようとした。